



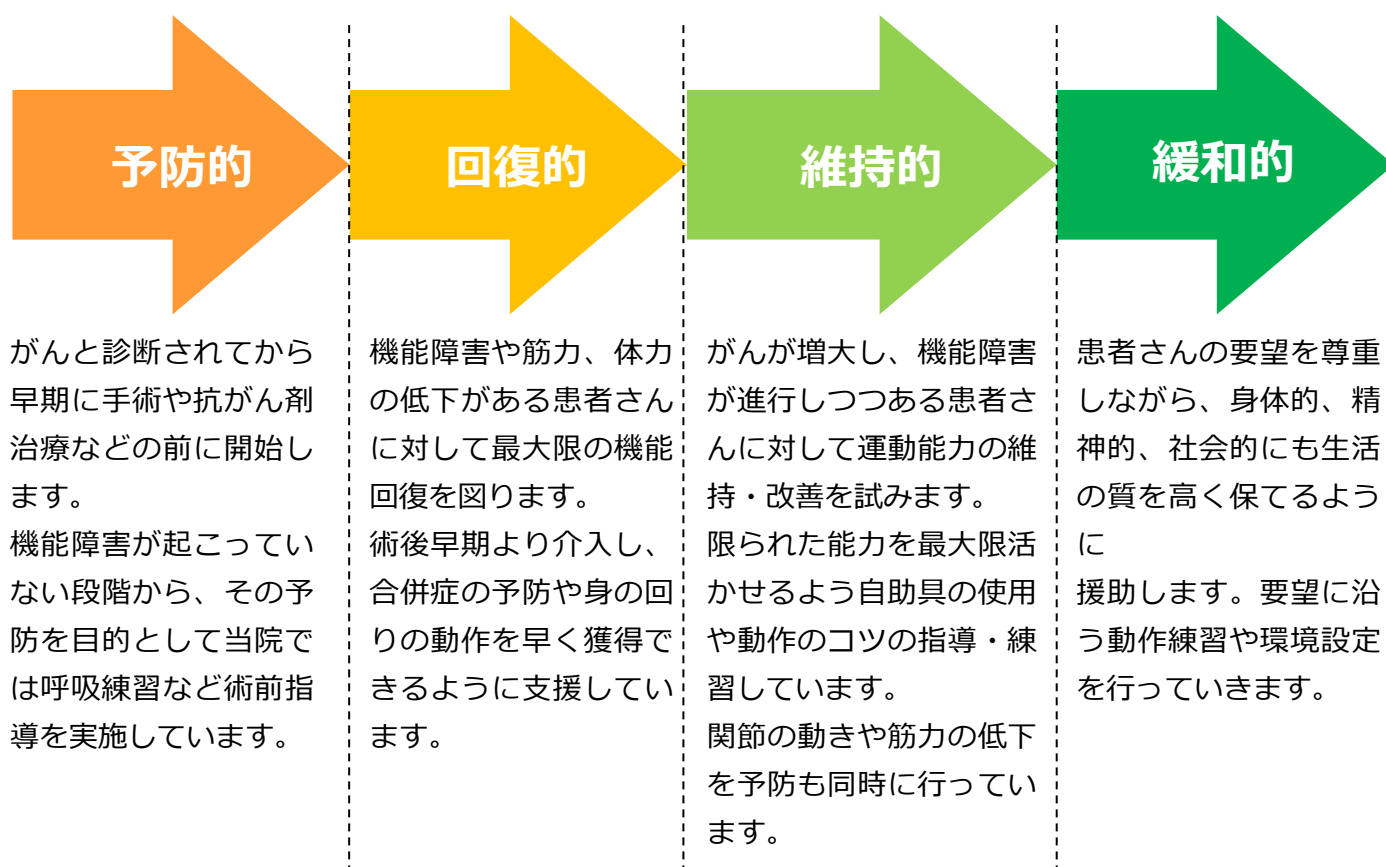
がん治療における リハビリテーションの役割

2016年のがん統計予測では、罹患数予測が101万200例で、100万例を超える予測結果が算出されました。日本の罹患数は統計が作成され始めた1970年代から一貫して増加しています。(国立がん研究センターがん情報サービス「がん登録・統計」より)

その一方で、かつては「不治の病」といわれていたが、医療の進歩により、「付き合いながら治療する病気」に変わってきています。その中で、がん治療におけるリハビリテーションは、患者さんの回復力を高め、残っている能力を維持・向上させ、今までと変わらない生活を取り戻すことを支援することにより、患者さんの生活の質を大切にすることを基づいて行われています。

● がんのリハビリテーション 病期別の目的

がんのリハビリテーションは大きく4つの段階に分けられます。予防的、回復的、維持的および、緩和的リハビリテーションに分類され(Diez, 1981年)、単に余命が限られたがん患者の機能の維持、緩和のみだけでなく予防や機能回復もがんリハビリテーションの大きな目的です。



● がんリハビリテーションを受けるには?



がんのリハビリテーションを受けられる医療機関を探すときの一つの目安になるのが、2010年4月の診療報酬改定で新設された「がん患者リハビリテーション料」です。

これは、がんの患者さんにリハビリを提供すると公的医療保険からその医療機関に報酬が支払われるという制度です。その算定要件として、規定の研修を修了したスタッフがリハビリに従事していることが定められています。

現在、当院では研修を修了した理学療法士4名、作業療法士2名、言語聴覚士1名が在籍しています。

リハビリテーションを提供するとともに、カンファレンスなどに参加し、多職種とも連携し治療を支援しております。

